

第6次小郡市総合振興計画基本構想及び基本計画骨子策定に係るパブリックコメント(意見募集)の結果報告

1 パブリックコメント募集期間

令和3年12月20日(月)から令和4年1月11日(火)まで

2 パブリックコメント実施方法

第6次小郡市総合振興計画基本構想及び基本計画骨子(案)を市ホームページ、市役所経営戦略課、あすてらす、生涯学習センター、各校区コミュニティセンターで閲覧可能とし、意見提出様式により意見募集を行った。

3 意見提出者数(意見数)

3名(意見数21件)

4 意見の概要及び意見に対する市の考え方

全体に関すること

No.	ページ	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	—	基本構想の策定にあたって、総合振興計画審議会でブラッシュアップしてパブコメにかけ手順がよい。従来型のコンサルタント主導型にならないようにすべきである。 市議会議員は、大局的な立場に立って総合計画案に積極的にコミットし、計画案の段階で個々の主張や提案をすべきと思う。一方、行政はパブコメをアリバイ作りにはいけない。世界を揺るがせている新型コロナウイルスによる人類の危機を乗り越えるための知恵や経験知を、一つの地方自治体の小郡市の総合計画に反映して、市民の命と生活を保障するような「実施計画」を策定されるよう切望する。また、経済成長を強調するのではなく、人としての成長が促進されるような環境整備を目指してほしい。そのためには、最先端、最新を目指すのではなく、「最適」を目指すことが重要と思う。	いただいたご意見につきましては、次年度の基本計画や実施計画の策定に向けて、参考とさせていただきます。 なお、第6次総合振興計画の策定に当たっては、市議会と計画案の段階で意見交換を行っております。次年度においても引き続き市議会と意見交換を行い、市議会と共に策定を行ってまいります。

II 基本構想に関すること

No.	ページ	意見の概要	意見に対する市の考え方
2	2	(1)計画の目的 「第5次小郡市総合振興計画に基づき、着実に発展を遂げています」と記載されていますが、もっと明確に記載して下さい。	ご指摘のとおり、「…第5次小郡市総合振興計画に基づき、幹線道路の整備や大規模商業施設等の企業誘致、子育て環境・教育環境の整備が進む等、着実に発展を遂げていますが、…」に下線部を変更します。
3	2	(1)計画の目的、(2)計画の策定姿勢 について 「あれかこれかの選択」、「選択と集中」は、かつて過去にも実施された方法であるが、20世紀型短期的成長を目指し、みかけの効率化などになり、よい結果につながっていない点も多々ある。従来の方法に捉われず、日本全体に共通する「共通点」と小郡市の特性を踏まえた「相違点」を明確にして両者の施策を立てる必要がある。	少子高齢化の進展による社会保障費の増加、老朽化した公共施設の維持更新、頻発する豪雨災害への備え等、行政需要はこれまで以上に増加しています。 このような社会情勢に適応した持続可能な行財政運営の確立と市民満足度の向上を目指し、選択と集中により施策の重点化を図っていきたいと考えております。 いただいたご意見を参考にして、本市の特性や全国的な共通点を踏まえた市政運営に努めてまいります。
4	2	(2)計画の策定姿勢 市民の参画による計画とありますが市民とは声の大きい方を指すのか、元職員を指すのか、一般市民を指すのか明確に。	計画の策定に当たっては、市民アンケートや市民ワークショップで市民の皆様にご協力をいただくとともに、市の関係団体や公募市民等で構成する総合振興計画審議会でも審議いただきます。また、パブリック・コメントでは、市内に在住または通勤・通学をしている方や市内に事業所を有する法人、その他の団体から広く意見を募集していますが、フレーズの言い易さなども踏まえ原案どおりの表現でご理解ください。
5	3	(3)②計画の期間 一般的に長期計画、中期計画、単年度計画で単年度計画をローリングして中期で見直しではないでしょうか。	基本構想を9年間とし、基本計画を中期で見直しを行います。また、単年度計画である実施計画をローリングで毎年度見直しを行います。
6	3	(4)基本計画の進行管理 ここで大切なのは評価基準ですが、提示できるのでしょうか。PDCAのCは大変重要です。	ご指摘のとおり、行政運営サイクルの中で、評価(C)のプロセスは重要であると考えております。 基本計画の進捗状況を客観的に把握し、成果と反省を踏まえながら計画を推進していくため、次年度に策定を行う基本計画の中で指標の設定を行います。 その指標により進捗状況の把握を行い、第6次総合振興計画の達成に向けて進行管理を行ってまいります。
7	4	1. 社会動向 (4)情報通信技術の進展 スマートフォン持たない人、高齢者に対する事が書かれていない。	社会動向については、小郡市を取り巻く日本社会等の動向について、掲載しています。 なお、情報通信技術の進展の中において、スマートフォンを持たない人、高齢者への対応については、大切な視点であると考えておりますので、このことを踏まえながら、取組を進めてまいります。
8	5	1. 社会動向 (5)持続可能な開発目標に向けた取組 この項目全体に言えることですが小郡市を取り巻く環境を述べていて、小郡市はどうするが記載されていません。以下の文面にも出て来ません。状況を述べた後、小郡市はどうするを記載しないと文章がしまりません。 結局SDGsは小郡市としてどうするのでしょうか。 (6)も(7)も同様です。	社会動向については、小郡市を取り巻く日本社会等の動向について、掲載しています。 なお、小郡市におけるSDGsの推進については、P19の下部に掲載を行っています。

II 基本構想に関すること

No.	ページ	意見の概要	意見に対する市の考え方
9	14	2. まちづくりに関する市民の意識(2)まちづくりの満足度、重要度 小郡市の進むべき方向が明確でない時点でこの事の重要性に意味はあるのでしょうか。	今後のまちづくりの指針となる総合振興計画の策定に当たっては、市民の皆さんの意見を踏まえることが重要であると考えております。 市民アンケートの結果については、市民の皆さんが日々の生活の中で感じておられる結果として捉えています。
10	14-15	2 まちづくりに関する市民の意識について 2回のアンケートの結果で、回収率が約50%であるのはやむを得ないが、回答者が合計約2,000名(16歳以上の市民を約5万人とすると約4%)の意見で基本計画骨子が左右され過ぎているように感じる。 (1)アンケート対象者が各2,000名は少なすぎる。 (2)無作為抽出が一般的であるが、報告書を見ると、回答者は60歳以上の高齢者が多く、若者が少ない、また校区間で大きな偏りがあるなど。 (3)その結果市民全体の意識が十分には反映されていない可能性がある。今後のアンケート方法には従来法に捉われない改善が必要である。	市民アンケートにつきましては、統計上、本市の人口規模に必要な回答を得ており、市全体としての意見を推定するために必要な精度を得ていると考えております。 また、市民アンケートの手法につきましては、市民の皆さんの意見をより効果的に把握できるものとなるよう、ご意見を今後の参考にさせていただきます。
11	16	(2)小郡市サービス検証ワークショップ この件も小郡市の進むべき方向が示されていない中でのワークショップを行うことに意味があるのでしょうか。	今後のまちづくりの指針となる総合振興計画の策定に当たっては、市民の皆さんの意見を踏まえることが重要であると考えています。 ワークショップについては、「産業」、「子育て・教育」、「都市基盤」、「健康・福祉」のグループに分かれ、これまでの取組の評価を行っていただいた上で、今後の方向性についてご意見をいただきました。
12	18	第1章 将来像 1. 小郡市の将来像 将来像に記載されているのはスローガンであって将来像には思えません「小郡市は福岡市や久留米市のベッドタウンとして活性化を図り、リモートワークの拠点として最適なまちとなっている」等ではないのでしょうか。「共感・共働・共創」は言葉遊びに思えます。	将来像につきましては、市民とともにまちづくりを進めるに当たり、目指すべきまちのあるべき姿や望ましい姿を掲げています。 「共感・共働・共創」は、今後のまちづくりのキーワードとしていきたいと考えていますのでご理解ください。
13	18	1 小郡市の将来像について 文章だけでなく、図式化した一目瞭然の「ボンチ絵」で示すと誰もがわかりやすくなる。文面が情緒的で柔らかな表現が多く、具体的なイメージが湧いてこない。例えば、「多様な主体」、「全ての人々が包み込まれる」「地域共生社会」などの表現をもう少し具体的にわかりやすくする。この目指す将来像で小郡市がどのような姿や成果に到達できるのかを示してほしい。なお、「一人一人」は「一人ひとり」と表現したがい(この表現は以下同様)。	将来像につきましては、一定の説明を記載しており、大きな考え方をお示しをさせていただいておりますので、原案どおりの内容でご理解ください。 なお、「一人一人」の表記につきましては、新聞等では「一人ひとり」と表現されていますが、公用文における漢字使用のとおり「一人一人」と表現させていただきますので、ご理解ください。
14	19	1 小郡市の将来像について 「SDGsの推進」が記述されているが、SDGsの目標で小郡市で取り組むべき項目も考慮して、将来像に取り入れたがい。 SDGsの目標年度は2030年であり、本計画の目標年度と一致するし、国任せのトップダウンでなく、自治体の判断で自ら取り組むのがよい。今の政府は、コロナ禍の状況においても「自治体の判断や実情に応じて」と言って自治体に責任を下ろしてきているので、自治体自身でいち早く始めたがいと思う。	将来像につきましては、序論に掲載しているSDGsに向けた取組の理念や考え方も踏まえた上で検討を行っています。 第6次総合振興計画を推進することにより、小郡市でもSDGsの達成に向けて取り組んでいきたいと考えており、次年度にSDGsの推進を踏まえた基本計画づくりを検討してまいります。
15	19	2 将来像の実現に向けて 基本政策の右側に各基本政策がカバーする政策分野を例示したがいわかりやすい。基本政策の表現が包括的・一般的で現実面がイメージしにくい点がある。	次年度に策定を行う基本計画の中で、各基本政策における分野等を設定してまいります。

Ⅲ 基本計画骨子に関すること

No.	ページ	意見の概要	意見に対する市の考え方
16	22	基本政策前書きについて 「新型コロナウイルス感染症による影響や社会の変化」は、焦点化し過ぎている感があり、もう少し現状とそれに基づく将来展望にあった表現がよい。例えば、「地球温暖化による気候変動、新型コロナウイルス感染症による社会・経済・生活様式の大幅な変化、高度デジタル化社会などの急激な情勢変化」といった表現。	新型コロナウイルス感染症の影響による社会の変化については、分野横断的に特に留意が必要と考えておりますので、原案どおりの内容でご理解ください。 なお、いただいたご意見につきましては、今後の重要なポイントだと考えており、地球温暖化対策については基本政策1に、デジタル化については基本政策5に掲載しております。
17	22	基本政策1について タイトルは「安全で安心して」のほうがよさそう。 この政策1には、政策3の「3. 新型コロナウイルス感染症の影響」の項目を移したがい。 「現状と課題 2. 担い手不足や高齢化といった課題」をどう解決していくかという新たな手段・政策が「基本方針2」の記述では見えてこない。	基本政策1の名称につきましては、「安心」と「住み続けられる」をキーワードとして考えておりますので、原案どおりでご理解ください。 また、基本政策3の現状と課題3及び基本方針3につきましては、健康づくりの内容で、基本政策3の各項目との関連が大きいと考えておりますので、原案どおりでご理解ください。 現状と課題2の「地域の担い手不足や高齢化」といった課題に対しましては、多様な市民が担いあうまちづくりを進めることで対応していきたいと考えています。具体的な施策につきましては、次年度に策定を行う基本計画の中で検討を行ってまいります。
18	23	基本政策2について 「現状と課題 1. 土地利用」については社会・地域の大きな状況変化に対応して、従来のゾーニングの見直しを記述したがよい。 「基本方針1 西鉄小郡駅周辺を中心拠点」という考え方は従来型の成長戦略であり賛成できない。行政がなくても民間が開発するでしょうから、行政はその枠組みを作って指導すればよいと思う。むしろ甘木鉄道周辺や小郡インター・バイパス周辺の開発に注力すべきでしょう。 「基本方針3. 企業の誘導」は「企業等の誘致」と記述しない理由は何か。	ご意見を踏まえ、現状と課題1を「…今後は将来的な高齢化の進展や人口減少を想定した土地利用を進める等、 <u>社会や地域の状況変化に対応した土地利用の見直しが求められています。</u> 」に下線部を変更します。 基本方針1につきましては、小郡市は鉄道駅を中心としたまちづくりを進めています。その中でも公共交通の結節点である小郡駅周辺は、本市の中心拠点として都市機能を集約し、都市の空洞化、少子高齢化の進展に備えることが必要であると考えております。 また、甘木鉄道の駅(大板井駅、松崎駅、今隈駅・西太刀洗駅)周辺については、都市計画制度を活用した取組を進め、戸建住宅をはじめ店舗、事務所などが建築できるようになっています。 次に、筑後小郡インターチェンジ、久留米筑紫野線沿線は、開発が規制されている市街化調整区域ですが、産業系(物流、製造業系)、飲食店、ガソリンスタンドの建築が許容されています。今後、交通便利性を生かした土地利用を進め、拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの充実に努めて行きたいと考えております。 基本方針3の「企業の誘導」につきましては、企業誘致の取組に加えて、民間開発の誘導や支援を行うことを考慮した表現として使用しております。
19	23	基本政策2 地域資源を生かした活力あるまちづくり 宝満川左岸の農村部では、一層の人口減少あるいは高齢化が進むものと予想しますが、本市の特徴の一つは筑紫平野に在ることです。これからの農業は大規模化、大型農機具の導入が一層進み、近隣市町にまたがる形態になるのではないかと予想されます。 しかし、本市の総合振興計画にはこの点の検討が不足しているようにみうけられます。小郡市にとって食糧生産基地としての農業の新しい展望を示すことが最重要の課題ではないでしょうか？ そのために宝満川の改修が検討されるべきでしょう。 宝満川左岸の景観は日本有数の物でしょうから、もっと大事にしていけるべきではないでしょうか。	ご意見を踏まえ、現状と課題3を「また、農業については、 <u>筑紫平野に位置し、営農条件に恵まれています。</u> 」に下線部を変更します。 そして、基本方針3を「また、農業については、これらに加えて、農産物のブランド化、6次産業化、地産地消、農福連携を推進するとともに、 <u>食料の安定的な供給に向けて、集落営農組織の法人化の促進をはじめ、農業の担い手を育成します。</u> 」に下線部を変更します。 また、宝満川の改修の検討につきましては、P22の基本政策1 安心して住み続けられるまちづくりの基本方針1に考え方が含まれており、国や県と連携して、流域治水の施策を推進してまいります。 なお、自然景観の保全につきましては、平成29年9月に「小郡市景観計画」を策定し、宝満川沿岸をその保全と親水空間としての活用が求められる地区として「景観形成重点地区」に指定し、きめ細やかな景観形成に取り組んでいくこととしています。次年度に策定を行う基本計画の中でも、更に検討を行ってまいります。

Ⅲ 基本計画骨子に関すること

No.	ページ	意見の概要	意見に対する市の考え方
20	24	<u>基本政策3について</u> 本計画の「小都市の将来像(18ページ)」からすると、この政策3は「基本政策1」としたが一貫性があり、将来像と合致しやすい。 「現状と課題4. 部落差別」はクロス分析のD項目になっており、真っ先に記述するには違和感がある。この項目には、ネット社会によるマイナス面による誹謗中傷や自死の問題も大きな課題となっているので、追加したがよいと思う。 「基本方針2. 相談機能の充実」では、子育て支援の抜本的な解決にはならず、もっと思い切った方針を出すべきである。「保育士の確保」も同様。	市民アンケートの結果では、「豪雨災害への対応」が最も重点的な改善が必要な分野となっており、市としても特に取組が必要と考えておりますので、「安心して住み続けられるまちづくり」を基本政策1としておりますので、原案どおりの内容でご理解ください。 現状と課題4については、部落差別解消推進法にもあるように部落差別は今もなお存在しており、部落差別の解消が重要な課題の一つであるものと市として認識していることから、代表的な表記をしております。また、ご指摘を踏まえ、「依然として、部落差別をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人、性的マイノリティの人々等への差別や、インターネット上での差別書き込み等、様々な差別が存在しています。」に下線部を変更します。 本市の子ども施策については、「小都市子ども・子育て支援事業計画(第2期)」(令和2～6年度)において、様々な施策の目標・方向性などを定め、生まれる前から子育て期の切れ目のない総合的な支援を推進しています。基本方針2につきましては、子育て環境の状況から、相談機能の充実と保育士の確保に重点を置いて取り組んでいきたいと考えております。次年度に策定を行う基本計画の中でも、更に検討を行ってまいります。
21	26	<u>基本政策5 について</u> 「基本方針2」では財源確保にふるさと納税以外にもあらゆる方法に挑戦したがよい。例えば、各種団体や市民が取り組む活動やプロジェクトに対応できるような補助金やクラウドファンディングなどについて行政が申請等の手助けをすることも必要。 「現状と課題3、基本方針3」には政府が進める「デジタル田園都市国家構想」も追加記述したがよい。 またマイナンバーカードがDXのキーポイントになるので、カードの全員普及や利便性の向上を市としても一層取り組む必要がある。	財源確保に関するご意見につきましては、具体的な事業の検討の際に、参考にさせていただきます。 「デジタル田園都市国家構想」につきましては、令和3年12月28日の第2回デジタル田園都市国家構想実現会議で関連施策の全体像と目指す将来像について、取りまとめられており、現時点では本市における検討が不十分ですので、原案どおりでご理解ください。 マイナンバーカードの普及等につきましては、ご指摘のとおり、DXのキーポイントであると考えておりますので、次年度に策定を行う基本計画の中で検討してまいります。